

平成16年10月26日

「防犯環境設計」に基づく「盗難リスク診断サービス」を開始

独自開発の盗難リスク診断手法により、店舗の防犯対策をバックアップ

ニッセイ同和損害保険（社長：須藤 秀一郎）は、「防犯環境設計」の考え方を取り入れて開発した店舗の盗難リスク診断サービスを、平成16年11月から本格的に開始します。

「防犯環境設計」とは

建物や街路の物理的環境の設計（ハード的手法）により犯罪を予防するとともに、事業所や地域・警察による防犯活動（ソフト的手法）と合わせて総合的な防犯環境の形成を目指す手法。欧米では、CPTED（Crime Prevention Through Environmental Design：環境設計による犯罪予防）と呼ばれ、1970年代の中盤から進められている。

1. サービスの特長

主に高額商品を扱う店舗を対象とします。

店舗の実地調査を行い、「防犯環境設計」の考え方にに基づき、5つの観点（右表参照）から多角的に分析・評価します。

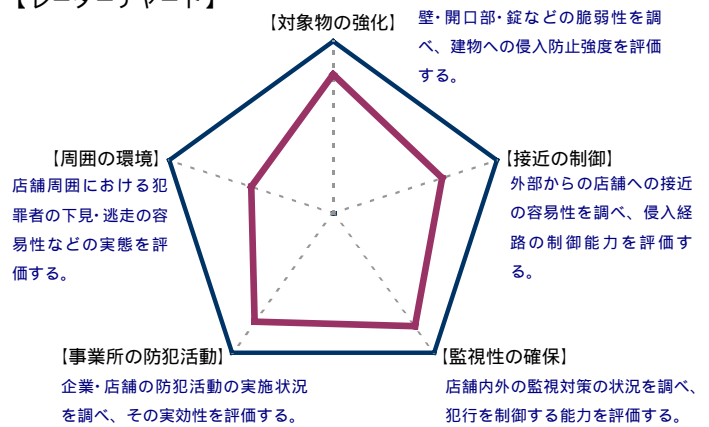
問題の所在と対応の方向が明確に把握できるよう、診断結果を点数化し、レーダーチャートで示します。

防犯性能を高めた店舗づくりといったハード面、従業員による防犯活動・接客上の工夫といったソフト面の両面から、実効性のある具体的対策をご提案します。ハード面の対策については費用の概算見積りも行います。また、「夜間の侵入盗」と「営業時間中の窃盗・万引」何れのリスクにも対応可能です。

盗難リスク診断の分析・評価の観点

- 対象物の強化（壁・開口部・錠などの脆弱性）
- 接近の制御（店舗への接近の容易性）
- 監視性の確保（店舗内外の死角の状況）
- 事業所の防犯活動（防犯マニュアル・従業員の取組み状況）
- 周囲の環境（下見・逃走の容易性）

【レーダーチャート】



診断費用は1店舗30万円（2店舗目からは1件15万円）で、子会社のフェニックスリスク総合研究（株）（社長：藤田 洋司）を通じてサービスを提供します。

2. サービス開発の背景

近年、都市部を中心に盗難犯罪は組織化、巧妙化、粗暴化が顕著となり、未然防止活動も困難の度合いを強めていると言われ、店舗経営にも重大な影響を及ぼしかねない事態に至っています。盗難事故によって被る損害は、金品といった有形の財産だけでなく、顧客・取引先からの信用を失う可能性もあります。

当社は、過去から蓄積している防犯対策技術と、保有する保険事故分析データを基に、お客様企業へ「盗難リスク診断サービス」を提供してきましたが、客観的かつ総合的なリスク分析・評価と実効性のある防犯強化策の提案を求めるニーズにお応えするため、「防犯環境設計」の考え方を取り入れた新たな診断手法を自社開発しました。

今回の開発に至る過程では、全国に30店舗以上を展開している大手外資系宝飾企業の要請を受けて、両者一体となって進めたセキュリティ強化プログラムがありました。新しいリスク診断手法に基づき、複数の主要店舗を実地調査し、潜在する盗難リスクの洗い出しと定量分析、具体的なセキュリティ強化策の提案、対策費用の見積もりを行った結果、店舗経営の的確な投資判断に極めて有効であるとの評価をいただき、当該企業のセキュリティガイドラインの見直しと、全店舗の自己セキュリティチェックにも活用されています。

このような成果を経て、当サービスを本年11月から本格的に開始することとしました。

以上